

12 多彩なまち

小樽という土地の特徴として、場所によって彩られる様々な個性がある。小樽滞在中の私は、そうした場所ごとの個性を存分に楽しませてもらった。

北のウォール街の銀行建築には、スケールの大きさに圧倒された。日本銀行旧小樽支店金融資料館、市立小樽文学館、市立小樽美術館、小樽市総合博物館などの専門的な文化、社会教育的施設では、知的好奇心が満たされた。

滞在中に毎日のように歩いた運河の散策路は、やはり季節や天気によって印象が違い、日々、異なる情景を楽しむことができた。小樽市総合博物館の運河館では、明治期に北海道の開拓がなされる前と後の小樽の歴史を概観することができ、非常に勉強になった。

運河沿いの道に並行して立つホテルも、散歩の途中に食事をしたり、お茶を飲んだりするのにちょうど良い場所にあり、見てきたばかりのまち並みが与えてくれた味わいをかみしめながら、美味しいコーヒーを飲み、頭に浮かんだ色々な考えを整理した。

大通りから横道に入った路地裏にある飲食店、都通り、サンモールなどの商店街、寿司屋通りで人の温もりを感じながら頂く食事とお酒はやはり格別で、新鮮な海の幸と小樽酒はこんなにも合うものかとあらためて思った。花園1丁目の店の雑多な雰囲気や店構えなどにも興味をそそられた。

堺町周辺の古い商店や倉庫などを再利用したお店で、ガラス、オルゴール、雑貨などを見たり買ったりしていると、暮らしを彩る小道具が演出する効果により、別世界に誘われるような気がした。

天気の良い日に山の手地区の市役所、図書館、体育館、グラウンドなどの公共施設、小樽公園などに行き、花や緑や高台から見下ろす景観を楽しんだ。天狗山の山頂にも、路線バスやロープウェイに短時間、乗っただけで容易に行けることが嬉しく、涼しい風を感じながら山の上で過ごすひとときは本当に心地良く、とても気持ちが和らいだ。展望レストランでは目の前に広がる壮大なパノラマを見ながらゆっくりとお茶を飲み、近くに展示されていた様々な天狗のお面の大きさに驚いたり、今まであまり触れる機会がなかったスキーマの歴史について知り、面白かった。

小樽には家族連れが楽しめそうな場所も多く、緑がきれいな手宮公園はレジャーシートを広げてゆっくりお弁当を食べながら過ごすのに良い場所だと思った。交通博物館である小樽市総合博物館の本館、おたる水族館は世代に関係なく学びと楽しみを与えてくれる。高台にそびえ立つ鯨御殿が小樽という土地を見守っている存在に見え、小樽の歴史の出発点を仰ぎ見た気がした。

文学碑や歌碑などは、小樽市内の広域に渡って様々な場所に存在し、散策をしながら在りし日の文学者たちが見たろう情景を想像することができた。

小樽築港でヨットを見、ホテルのカフェでお茶を飲みながらくつろいでいると、頭が空っぽになり、真っ白なキャンパスに無性に何かを描いてみたくなった。

展望台から見た景色は、やはり印象深く、眼下に広がる美しい海、大いなる自然から人間の小ささを教えられたような気持ちを持つと同時に、だからこそ、夢くらいは、スケールの大きいものにしていきたいと思った。

それにしても、小樽には実に様々な過ごし方があり、そうした多様な過ごし方を提供できる小樽の多彩さと能力には、とにかく驚かされた。



北一硝子

(写真提供・小樽ジャーナル)